

250523 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 石垣・埋蔵文化財部会（第66回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

13:30

保存整備課長姫野：はじめる

渡辺所長：4月着任 よろしく
昨年度6回会議 ご助言いただいた
今年度もよろしく
議題3点
・本丸搦め手
・保存方針
・建造物保存
報告
・水堀

姫野：出席者紹介
北垣、宮武、千田、西形、梶原
文化庁小野、愛知県尾崎
教育委員会、名古屋城総合事務所
写真ビデオはこれまで
資料確認1-4
座長に一任

北垣：議事 資料1
石垣修復 間違えた 本丸搦手周辺石垣修復

13:36

名古屋城：平面計画
要旨の通り 天端平面まで積みあがっている
修景の考え方
今後のスケジュール 6月上旬全体に諮る
資料5 ページ目、6 ページ目 抜粋

名古屋城：発掘調査の説明

4点確認したい

13:47

北垣：意見は

宮武：午前 現場を見た

丸山先生 樹木どうするか

コロナの前に行った

変遷 トレンチ 右は？

絵図 金城温故録 「旗台」石垣 一段高い

図4にもある

昭和7年実測図にもある

今は見えていない 削られたか埋められたか

埋戻し？ 埋まった時期がわかる

効率的に埋められたか時期的に絞れるのでは

名古屋城：北側 正確に把握できていなかった

こちら側にもトレンチ検討したい

宮武：3ページの図 石垣高まっている ここに旗台がある

なにかライン？

千田：その場所はなにに？

宮武：単なる林 等高線にもでていない

千田：図面が相当おかしい

石垣断面 旗台 高まりがある？

平面には表現が来ていない

こういうおさまりになるはずがない

石垣を書いているところと、ごまかしているところ

図としても なんですか？

A区調べるなら、反対側も

Aは修景 反対側はなにもしない？

計画として奇妙

どういう表記か？

議論する際の基本的な図面ができていない
どういう意図か

名古屋城：解体後の限定測量図

千田：石垣表現がどうしてまちまちか

名古屋城：石垣表現が

千田：一つの図面でまちまちなのか
枡形 痕跡 平面側では表現していない
木が生えているからわからなかった？

名古屋城：等高線を主軸
石垣を

千田：橋台が出ないとおかしい

名古屋城：築石がとられた
等高線がないのはただしい

千田：この作図になるはずがない

宮武：上がっている

名古屋城：内堀？

千田：内堀ではない

名古屋城：入口は塗っていない

千田：そこの話ではない

名古屋城：本来は上に上がっているはず

宮武：ここの高さが違う 等高線がないと

検討する資料は

千田：会議資料を出す前に、ダメだと見つけないと
それで議論しないと
毎回これ

宮武：そこの線もおかしい

千田：オーバーハングしている？

宮武：明らかに段差ある
ここを狙えばいい 埋戻し なん十センチはっきりわかる
昭和の図もある
効率的 見分けが
千田先生言う通り資料はちゃんとしよう

名古屋城：調査区 旗台 南北方向のトレンチを設定したい

宮武：復元するか
搦め手馬出 天和修復
馬出 修景をいつにするのか 最初に議論しないと
・解体修理する前？
・江戸期のどの段階
明治？

名古屋城：個別設定していない
元のあった姿にもどす
事業着手前 参考は金城温故録
しっかり決まったものではない
まさに詰める部分

千田：ご説明は問題 まずい
旗台 金城温故録にはでるがその他は出ない
名古屋城総合事務所はなぜか金城温故録推し
作った当初より下った時期
必ずしも正しいとは限らない

旗台 ここが旗の台とは考えられない
実態は旗台ではない
これを基準にする 無批判にしている
基本姿勢がよろしくない
ひとつづつの名称
通常のお城 基準を幕末期
この絵図決めましょう 名称を呼ぶ 通常整備のやり方
通常の手順に沿って名古屋城もやってほしい
整備の修景 参考は金城温故録 相当問題があるのでは
本丸の東 馬出を修景・整備していく
お城としての馬出空間 前提
本来の城としての役割 なるほどこういう場所 理解していただく
本質的価値 促進整備が求められている
はき違えている
植生修景 本質的には大事 組織の中で議論して

宮武：西の丸の蔵でも議論

城に限らず、歴史遺産の整備 エリアエリアで違う時代は避ける
名古屋城全体 保存整備活用計画
どこをターゲットにするのか？
熊本城 どの時代の石垣修復 明治 10 年西南戦争をターゲット
特別史跡 いつと決めないと 憲法
それに基づいて
搦め手馬出 齟齬が出ないのか
今の現状 グラウンドレベル 水路が勾配
維持が困難
千田先生 丁寧
ターゲットはどことなっているのか確認を

北垣：ご意見いただいた 意味了解いただいたか

名古屋城：ご趣旨は理解できた
大筋 時代設計

宮武：最初に決めないと

北垣：時間が切迫　できるところをまとめて

千田：1枚目　折り返しスロープ
バリアフリー化？名古屋市として決めたという理解？

名古屋城：積みなおし基本計画　スロープで見ていただく
方針を作った
具体的にはスロープ

千田：修景の考え方
「バリアフリー　これまで全く考えてこなかった
今後はバリアフリーを基本にしていく」
うたっておいて
ここはやったけどほかはやらないというへんなことはしないで
前提として

姫野：修景の考え　ご意見いただいた
頂いた意見を基にまとめる
修景　発掘調査　結果によって集計結果変わるかも
南側追加しつつ実施させていただく？

千田：私の質問に答えていない
バリアフリー　ここで提案のようにほかにもやるのか

北垣：まずはこたえて

千田：所長こたえて

渡辺所長：本丸馬出はそのとおり
城内全体の質問
様々　利用者と動線
バリアフリー大事な考え方

千田：それはおかしい　ここではバリアフリー
ほかではしない？

渡辺所長：他も実施していく

千田：わかりました

北垣：トレンチ 実施していいか

千田：Aの反対側 トレンチを追加して

A区 何らかの石垣の通路の仕切り

土堀が建っていた？基礎が見つかる？

控え柱があった？

2メートルあたるか？もう少し幅があった方が
ギリギリ

名古屋城：A区 3メートル幅で検討したい

反対側 ラインがそろうように設定

3メートルで調査区を設定したい

梶原：3ページ調査区 内側と外側両方掘る？

名古屋城：そう

梶原：図10 古い時期の石垣がある

外側掘った方がいい

過去の調査区 原石垣とすりつくのか？関係ないのか？

B区ででるかわからない

名古屋城：ここのコーナーが古い石垣が出るのか

調査区を設定したい

宮武：最低限の調査にしようとする意図

いつの段階で変わったのか

現実的に整備

「新しいものでした」地下の石垣どうするの？

外面 排水、外側 地下に石組水路？

外をもう少し掘った方が二度手間にならない

名古屋城：今は控えめにしている

工事通路の関係

現状変更申請上はもう１メートル多く

必要になったら多く掘る

宮武：スケジュール

天端が積みあがる 上面整備

天端の修復はいつ終わるのか

名古屋城：令和７年度中には完成

令和８年度 修景

宮武：石垣修理 ３月バトンタッチ？

全然時間がない

気を付けないと、石垣修理終わったが更地が残る

修景整備のコンセプトから出して

北垣：諸々総合して可及的速やかに

名古屋城：ありがとう

14：23

北垣：資料２ 石垣保存方針策定

名古屋城：これまで部会 変状評価、修復履歴

策定までの計画 構成案を提示

第４章

第５章

まだ部会で議論・指導いただいていない

今回目次初めて見せる

14：28

北垣：説明いただいた 忌憚のない意見を

千田：資料２ １枚目

方針策定の目的

- ①文化財として確実な保存
- ②来城者が安全に石垣を観覧するための環境づくり
 - 相当おかしい
 - 通常は安全に城を観覧する
 - これだと石垣を観覧したがる特殊なファン

姫野：石垣見るための距離に頭がいていた

- ①上を歩く、下を歩く

千田：有識者による指導助言

4章2節 有識者による指導助言

ほかした書き方ではなく、「石垣部会」による

安全性の観点

「有識者」とはだれ？

文化庁の認可、お認めになった石垣部会 明記した方がいい

姫野：ここで使っている有識者 石垣部会と思っている

修正する

宮武：研究センター内部手続き？

外部のコンサル？

名古屋城：外部コンサルに協力

宮武：ご指導

それならよい センターだけなら相当なエネルギー

プロに外部発注しないと厳しい

5章1節がもめるはず

4章2節3節 ダメージ根幹

5章2節3節 スローガン

力点も考えて

議題提出時期 首を絞めるからやめた方がいい

あくまでも今年度中に チャレンジャーだな一

年度末までに詰める

コンサルが来てくれるなら

議論の力点は真ん中

上に現存する建物が載っている石垣はどうするか

次の議題に絡む

- ・人が歩く安全性
- ・重文指定建物を支える石垣

間違えると、上の建物安全性と、下の安全性がバッティング
結構しんどい

北垣：他は

千田：次の議題にかかわる

重要文化財の保存活用 建物の耐震診断もされる

最近の傾向 歴史的石垣の上に櫓

建物耐震性 相当出る

石垣保存方針 「石垣の改変は許さない」矛盾が生じる

連携させてにらみつつ作らないと

相当大変だな

建物耐震診断出ないとなんとも

普通はただでは済まない

じゃあ石垣何してもいいということではない

重要なポイント

本丸隅櫓 「人を入れない」ならそれはそれ

耐震不十分 人を入れることができない

本丸側からの接近もできない

西南隅櫓は距離がしやすい

東南隅櫓 本丸御殿との動線 たちまち問題

実際どうするのか？

北垣：大変難しい話

資料2と3の関係

特別史跡であればなお検討材料があろうか

2つに分けてしまうことで話を通していけるか

大変難しい

ご意見は他には

千田：宮武先生ご指摘

方針 上に建物 節を分けた方がよい

実務的に変わる 混乱が生じない

北垣：ほかにご意見は

宮武：細分化

復元 人を入れているもの

・建造物文化遺産

・今の活用 石垣に載っているもの違う扱いすべき

状況状況に応じて分けた方が矛盾生じない

表題「『特別史跡』名古屋城」が大きい

千田先生方針に賛成 さらに細分化すべき

北垣：今すぐにこうだという言い方できにくい

建物の中に人がどの程度入るのか 大きな課題

・1人2人でいい

・どんどん入れましょう

全く意味合いが違う

事務局で検討していただく たたき台を出して

分けてそれぞれに条件を勘案する中で

この場合はこうかな 課題として 事務局として考え

より委員会としては検討しやすい

ご意見は

そういうことで

今日ここで結論出さなくてもいい

時間が トイレ休憩

14:55からはじめる

14:45

14:55

北垣：時間になった

名古屋城：防災計画の一環

前年度西北隅櫓ボーリング

今年度東南隅櫓 建物耐震診断+石垣基礎診断

昨年度実施したボーリング調査報告

東南隅櫓 022H 021H 建物直下

西北隅櫓 2240 2230 建物直下

022H 江戸時代に崩落可能性 幕府に報告

西北隅櫓 2240 明治地震崩落 昭和45年雨で崩落

西10数メートル 積みなおし

空堀・水堀に面しており、崩落しても来場者への危険はない

2.3 ページ

予備診断実施 評価項目

基礎点、変状点

総合評価 評価一覧

021H 022H 基礎診断実施する必要あり

2230 安定しているとみなされる

2240 北 基礎診断実施する必要あり

対象4つ実施したい

資料4 ページ 西北隅櫓ボーリング調査結果

80メートル

15:07

北垣：ありがとう

西形：詳細な地盤調査

入力地震動が決まる

基礎診断やられる 石垣の裏の構造があったほうがいい

名古屋城：築石 背面 基本的には本丸搦め手のデータを参考

西形：本丸搦め手 だいたいどのくらいの長さ？

控え、勾配

平均勾配が書かれている

名古屋城：具体的な平均値求めている

寸法は出している

ざっとみると1メートル前後

西形：基礎診断 栗だけしか考慮しない

標準値が決められている

できれば栗の厚さ 分かっている方が検討しやすい

全体栗とみて計算

全て崩壊面の荷重がかかる

裏の構造が分かる 裏に堅固な土の層

→その分の土の重量を免除してもいいだろう

後ろに基本的には土の層があれば 計算上可能

通常はレーダー探査で計測する

名古屋城：実施検討 以前検討した

西北 水堀に接している

西形：そうなら仕方がない

勾配は取って 平均勾配ではやらない方が

宮武：2 ページ 右と左の石が違う

右 近世の進化 おそらく慶長期

左 その後

石材が違う

搦め手は天和 全く違う 意味がない

計算方法が違う

解体できなければレーダー

裏 総栗なのか土なのか違う

搦め手と本丸 グレードが違う

搦め手 上に建物を載せない

本丸 上に建物を載せる

データを転用するのは無茶

西形：強く言っていた

きっちりしたデータを取っていただいた方が納得する

もし可能ならデータ採取して

宮武：どう把握するか苦慮されている

休憩前 石垣どうするか 表裏一体

上に建物載っている石垣 どうするか

下の石垣 「安定性を欠いている」 パイル打ちますか？

やっちゃいけないこと

同時に活用 人を入れるのはどうコントロールできるか
なにかあったらどうするか

休憩前後 同じ議題

外見上経年劣化 部会で対応 十分議論できる

石垣角われている

モニタリングしている？

名古屋城：やっていない

宮武：あきらかにぬけ、ひび、角石ひらき進行

補修方針 事実上延命方針やって

いうまでもなく、ここが優先なのか、

外観上危ないのか

全体の名古屋城の何番目かは考えるべき

西形：基礎診断やっちゃうと○か×かはっきりでる

考え方 櫓 人は入れない

姫野：現在は人は入れないようにしている

西形：基礎診断の結果 ○か×が出る

これまで割れてるね、抜けてるね

同列くらいの判断で

○×がさきにいく

全部合わせてきっちり考えるのが正しい

上位になるというわけではない

北垣：ありがとう

姫野：重要文化財建造物 検討

これだけというよりは、全体の中でどう考えるか

この分量 1年度でやるのはどうか

全体を見ないとここの議論だけ先行するのは

こちらの石垣 モニタリング現状していない

学芸員 全ての石垣2回見た
全体方針を決めて、「ここはモニタリング」決めたい

北垣：ほかに

宮武：ゲージつけたほうがいい
金がかからない
南東隅櫓 壁が落ちたのは気になる 風は吹いていない
回転した？
プラスチックケージつけるだけ
数ミリ単位のずれ 見ておいて損はない

西形：計測の話
名古屋城 活発に使われていない
いろんなお城 基礎診断対応も含めて計測している
ガラス棒 定点観測 ゲージ
そういう時代を通り過ぎて、近代的な方法でやりましょう
自動的に電氣的 ネットで送る
常に監視
いくつか使われ始めている
初期投資かかる 長い時間 後は機械 安くつく

宮武：座標を入れる
すごく簡単 無料アプリでもできる
ゲージ入れるより3D 重ねてやる
1年間全く動いていない 今危険性より安定している

北垣：他は

千田：0と0 特殊な訓練うけなければ読めない
誰が見てもわかるように
何かいい方法を見つけて

北垣：関係ないかも
資料3 1枚目
こういうような勾配、計算式 関わらない人

資料を見るとパッと見てわかるか？

素人が分かりやすいように

非石塁

文化庁が決めた 一般に分かりやすく説明するにはどうすればよいか

宮武：この席上にいる人

同じイメージ

宮武・千田は口はぼったいいかた 何十年もお城で食っている

我々がイメージできない

誰もわかっていない？困ったこと

千田：文化庁に絵がある

東南隅櫓 非石塁に分類

内側に石垣 非石塁と分類していいか

非石塁とはなにか

一般的には石塁

内面の石垣がある

内面石垣

盛り土 奥の櫓台を構成している

この後の耐震診断変わってくる

宮武：文化庁「これつかえ」

北垣：石垣は伝統技術

文石協 積んだどう安定させるか 奮闘している

石垣は外壁側 勾配 直角三角形 のり勾配

中世から建造物である

現代も使われている

石塁 伝統技術研究している人

石垣の裏に裏栗石 非常に少ないかない

そういう言い方をされる人もいる

石垣 内壁部 高い石垣に対して裏栗石を詰めて

セットにして内側に低い石を積む 安土城

外側外壁部 内壁部 幅はいろいろある

高さもいろいろ

ひとまとめにして「非石塁」わからない

一般でなくともわからない
なんとかわかるように 文石協の技能者
計算しても計算しがたい
出されるのなら、持つ意味を出さないと議論にならない
難しい
もう少し理解しやすい意味に作り替えて
分かりやすく
まずそこからつかえてわからない
石垣の上にさらに建物 人が入らなくてもいいのか 入れるのか
何人入れたらいいのか 考えたうえで
今日はそれ以上は無理

宮武：名古屋市側の立場
文化庁から示された基準 部会で
別の分かりやすい診断 通じない

千田：小野さん発言できない

宮武：城郭として常識的
伝統的用語 きれいにもんで矛盾がないか やっていない
どうしたものか
どう運用すればよいか
名古屋においては近世城郭 伝統的土木
城郭常識 委員 疑義が出ている
取り扱いどうしたらよいか
文化庁から真摯に指導を受けるのがいい
名古屋市が困る

姫野：文化庁の妥妥った形
名古屋市石垣保存方針 非石塁議論
名古屋城全体 工夫する余地がある

北垣：これで終わる

千田：趣旨 建物と石垣両方
建物は市だけでやるのか、部会の指導を得て？

結果が出る 上の問題 下の問題

診断を実施するもの

いつどうやっていつ結論？

スケジュールは？

結果がいつ出るか 建造物部会両方にまたがる？

報告して終わる？ 実際にどう石垣補修？

上に建物ある

・建造物部会側

・石垣部会側

すり合わせ必要

基礎診断後 部会をまたいだ議論も必要

逆算でいつまでに診断終わるのか

姫野：スケジュール示していなかった

建造物 保存活用 昨年度から２年度 今年度まとめる

建物耐震診断 秋ぐらいまでに速報

どういった結果 大きなところ

必要な どういう対策 今回決めるわけではない

建造物部会 建物は

石垣部会 石垣報告

とりあい 合同部会 想定していなかった

結果を見て検討したい

宮武：全体で最終結論

姫野：そう

宮武：逆算して年度内に決定できる？

姫野：全体 ２月まとめる

宮武：部会 夏くらいから出ないと間に合わない

千田：診断結果 結論でていない

他の城事例 従来昭和、平成 重要文化財解体修理

耐震補強する

文化財としての建物

熊本地震を契機 耐震性考え方 変わってきてきた
建造物側耐震強度 達成するためには石垣側に影響及ぼす
選択せざるを得ない

基本的な方針 議論

名古屋城の場合、部会に意見 それぞれ勝手な意見
年度末に全体にかける 実務としては使えない
どうすればいいのか

宮武先生 名古屋城としてはどう考えるのか

データに基づき議論

部会間の議論

最終的に全体

国の補助金、市の税金が入る

結果的に使えない 申し訳がない

宮武先生からも指摘 スケジュール感どうなっているの？

どうにもならない

分かっているのか？

現実的な提案になっているのか？お尻があるから

そうとう重大 一度方針決めたら、朝令暮改

特別史跡 避けるべき

そのための調査をする

本物の重要文化財 今回調査する

議題提案 十分な手続きになっているか

「実施したいと考えている」ではなく「実施するもの」

名古屋城の甘い考え

事務局側と部会側の関係

何を議論 なんとなく審議をさせて？

形式的な会議ではない

名古屋市が嫌い、憎いではなく、特別史跡をどうするか

議題の出し方やスケジュール感 これでもいいのか

根本的に

何年も続く

・組織に問題？

・重層的 同時並行 組み立てそのもの？

ずっと起きている

いちいち言わないが、資料が雑 書くべきことが書いていない

これを機に立て直して
今後天守のことだってあるとおもう
名古屋城総合事務所は機能不全
調査研究センター うまくない
教育委員会 サポートできていない
関係者が考えないと
部会、全体に投げてなんとかなるではない

宮武：千田先生ご指摘の通り
計画の見直し
石垣保存方針 予定表
評価と現状 保存の方法
11月ごろ、1月ごろと明記
櫓の診断結果 反映しないと
これはできない
予言者ではないが、「書かない方がいい」
年度内 全体ではかってゴーサイン
夏か秋には結果を突きつけて
スケジュール 11月に終わらせる
綱が切れている
どちらか見直さないと

姫野：章立てで何月ごろ
注記の方 部会で議論 議論が必要 前倒し
スケジュール 議論を11月 その前に必要
もう一度確認したい

千田：名古屋城総合事務所長はどう考えているか
惨状が何年も続いている
現状は無理 関連 連関している
石垣は石垣 建物は建物 なんとかなるだろう
それではどうにもならない
・マンパワーが足りないなら増やす
・仕組みが現実にあっていない
このパターンがずっと続く
いかがか

渡辺所長：部会の中でたびたび指摘

資料はもとより、根本的な体制、仕組み ご指摘

資料を丁寧にする

立ち返って事務所全体でしっかり対応

限界 体制仕組みまで立ち返って考えたい

北垣：いろいろ議論尽くしている

4時をめぐ

あと報告事項

今日の内容 結論でることではない

内容を総括していただいて 次回に再度どうまとまるか報告して

先を考えていきたい

これ以上は今日進めても皆さんお疲れ

報告し入っていききたい

16:01

名古屋城：千田 小野様リモート参加 発言ができない

次第 報告4 水堀

梶原先生退出

名古屋城：1ページ目左 調査結果概要

SX9と「SS3及び」SS4

このことからSX9と「SS3と」SS4

南波止場

16:12

名古屋城：ご意見は

宮武：SX9はどれ？

名古屋城：30.31

宮武：別かぶっている？

敷いている状態で止まる？

名古屋城：33 層から削られている

宮武：この石は人工構造物ではなく？

名古屋城：評価が難しい

SS4 にいれてもいい

組み合っているが、一個手前が組み合っていない
なかなか

宮武：木材とは

名古屋城：くだとおもう

宮武：断面図だとこれがくい？

名古屋城：6 本くらいあった

これだけ深く刺さっていた

ほかは近現代にうたれたのでは

宮武：これで評価は難しい

当初考えていたものとは全く違う

どの構造物も違う

SS4 は明らかに石垣

SS3 SS2 あたりがある

上に作事？建物があつた可能性

その後ろに石塁

構造体が違う

名古屋城：外された可能性

これだけレベルが合わない

宮武：フラットでなくてもいい

柱を載せればよい

施設としては一体かも

名古屋城：何とも言えない

補足的 徳川義勝 写真

ここが映っている 石段があるだけ
幕末以前にはなくなっていたのでは

宮武：これ以上は追いやうがない

初期 スロープ

下地造成 事業をやっていた

名古屋城：重量物

宮武：重いもの

水が来る 変わった建物 荷重をかけるため
大変な価値がある
それはなにか？調査担当からの意見

名古屋城：埋門に直結

何の門もない

城内に入る門があった？

宮武：掘りたい

全体発掘出来たら面白い
唐津城本丸下 船をつなげられる
高松城 櫓台下
松本城 石段
和歌山城 三の丸 多門櫓
全国的に水場の堀と曲輪 ひっかかるのでは

名古屋城：あこう城もそうだったかも

報告書刊行までに調べる

千田：ほりのしきり

仕切りを設けようという計画があった
その場所に作られていたか 変更の可能性
絵図 制度の問題
縮尺 こうなる
絵図の制度を超えた議論

穏当な結論

名古屋城：他は

宮武：将来的にどうするか

いい素材 搦め手石垣

北堀全体の環境回復

北の公園再整備

大庭園 回遊式

いよいよシンポ 船を浮かべて

現物が出てきた可能性

せっかく出てきた

堀を遊興施設

新しいプレミアム どうするか

見通しは

名古屋城：舟運事業

水堀 今第一段階

辰之口 船着き場から船を出す

水堀 西北隅櫓 天守魅力を

南波止場発掘調査 引き続き調査

千田：最初に気が付かないといけなかった

本丸搦め手

名古屋城の提案が間違っていた

工事用撤去 本来の堀に戻す

搦め手周辺の堀の調査

本丸搦め手 撤去 たんに戻すのか

搦め手内

堀を本来に戻す セットに

最後に私たちを試しているのか

今後は議論していません

全くバラバラ

委員 提案を見て「何を言ってるのか」

あまりにもひどい

今日の搦め手議論 関係ないものとして報告？

相当悪いやつか何も考えていないか
最初に議論 無効
この成果を踏まえてどう考えいるか
何もなかったことにして 工事用通路撤去ではいけない
これをやり直し
スケジュール相当狂うが考えないと

名古屋城：ほかにあるか

千田：「ほかにあるか」ではなくどうするか
名古屋城はそう
全貌が見えていない
史跡整備 なにをどうするか
税金で発掘するか
本質的価値をどう市民に説明するか どう整備するか
発掘した理由は何だったのか

姫野：保存整備課長

千田：所長から説明して

渡辺所長：連動性が足りない その通り
修景の考え方、議論

千田：やりなおし以外ない
「本丸搦め手周辺石垣」タイトルが間違っている
平面をどうするかだけ
何をやろうとしているか、史跡整備なにが求められているか
空堀も搦め手石垣を構成するもの
発掘した 税金使って
「こんなものが出てきた」職員が報告した
全く関係ないはありえない
国の整備

渡辺所長：すみません

千田：報告した
整備結果 同じ会議でばれた
考えるしかない 今日の部会の結論

宮武：助け舟
事業の性格、金
ほったらかしにするのはおかしい
石垣修理
別のことをやるのはおかしい
工事をやるから、周りのもの
水運と連動させて
石垣修理と切り離さずに積極的に考えて

千田：満点の回答

宮武：スピードアップして

千田：名古屋城側から話して

渡辺：連動性を考えて対応したい

宮武：ネガティブに考えない
舟 どうする？
全国的に珍しい 殿様が舟で遊んでいた 証拠が出てきた
搦め手石垣も城全体を構成する
一つのメニュー 事業費は違うが寄せてできないか
ポジティブに

名古屋城：それぞれ

千田：個別に追い立てられている
組織が死にかけている
文化庁 別の名目で走っている
特別史跡 発掘する
保存目的、基礎資料を得る
堀 そうではない いかに国民、市民が体感できるか

考えるのが名古屋城の仕事
夢のある名古屋城 わくわく考えないと
今回 議論は議論
水堀は報告
名古屋城もセンターも示せなかった
組織の弱体 弱っている様子があらわれている
小さな自治体では起きない
それぞれが分担 全体が見えていない
じゃあ堀のこと考えても 血まみれになる
所長答弁 より資料作るように
さらに間違えないように 会議資料に時間をかける
本質はそこではない
改めないとだめになる よろしく

北垣：アドバイザー尾崎さんに話 忘れていた

尾崎：愛知県
ご議論ありがとう
これ以上アドバイス 今日の議論
たくさんいつも以上にご指摘・ご助言たくさん
まずは整理して進めてご検討
以上

姫野：次第終わり

今後検討
ありがとう
16:39